

ブラジルに日本文化発信

静岡文化芸術大生 オンライン交流



ビデオ会議でブラジルにあるジャパンハウスの関係者と会話する静岡文化芸術大の学生ら＝浜松市中区の静岡文化芸術大

静岡文化芸術大の学生とブラジルにある外務省の文化情報発信拠点「ジャパンハウス(JH)・サンパウロ」の交流事業が2日夜、オンラインで始まった。新型コロナウイルスの影響で現地への渡航が難しい中、日本文化の

発信についてビデオ会議を利用して意見交換を進める。

県のブラジル青少年派遣事業の一環。例年は、学生が実際に同国を訪れてJHの関係者やブラジル県人会と交流していたが、コロナ禍で初のオンライン開

催に切り替えた。

初回は、同大とJH関係者をビデオ会議でつなぎ、学生4人が英語で自己紹介するとともに、それぞれ興味のある日本文化を説明した。デザイン学部3年の竹内唯さんは漆塗りや組木などの伝統技術を、文化政策学部2年の山下夏実さんはJ-POPやアニメ、お笑いの魅力を伝えた。

学生は今後、観光や教育、ビジネスをテーマに、日本の文化や情報を海外に発信するプロジェクトやイベントの企画案を練る。発表会は来年2月にオンラインで予定。JH関係者は画面越しに、「若い皆さんは今の日本をどう紹介するのか、企画として示してほしい」と呼び掛けた。

(浜松総局・土屋咲花)